

音楽科学習指導案

題材名「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」

教材：「ゆかいに歩けば」、「陽気な船長」、「動物の謝肉祭より『白鳥』」、「とんび」
令和7年10月 第4学年 指導者 萩原 広生

I 題材の構想

1 題材観

本題材は、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説音楽編の「A表現」(1)ア、イ、ウ(イ)、(2)ア、イ、ウ(イ)(ウ)、「B鑑賞」のア、イ、「共通事項」(1)「ア.音色、旋律、強弱」及び「イ.呼びかけとこたえ」に関連している。

本題材では、「音楽を形づくっている要素」の中の旋律に着目し、その特徴を聴き取ったり、それらによって生まれる曲想を感じ取ったりしながら、曲想や音楽の表情にどのように結び付いているのかを考えて曲を聴いたり、曲にふさわしい表現の仕方を工夫したりすることをねらいとする。今までの題材でも旋律の音の上行、下行が生み出す旋律の特徴について学習してきたが、本題材では、それに加え、スタッカートとレガートなどが生み出す旋律の特徴にも気付けるようにする。また、旋律の特徴に基づく表現の工夫や、仲間と共有しながら音楽を味わう活動を積み重ねることで、曲全体のよさやおもしろさ、美しさを見いだすことができるようになることを目指す。

教材曲である「ゆかいに歩けば」は、前半のスタッカートが付いたリズムカルな旋律と、後半のレガートでのびのびとした旋律が対照的な曲である。「陽気な船長」も、スタッカートのついた跳躍進行の部分とレガートで順次進行の部分がある曲である。どちらの曲も、旋律の特徴の変化を意識しながら歌い方やリコーダーの奏法を工夫するのに適している。「白鳥」は、フランスの作曲家サン＝サーンスが作曲した組曲「動物の謝肉祭」の中の1曲で、旋律や伴奏の音の動き、音色など音楽を特徴付けている要素に気を付けて聴き、それらの働きが曲想を生み出していることに気付くことのできる教材である。「とんび」は、1、2小節目の旋律の模倣や、とんびの鳴き声を表す旋律の同型反復といった特徴から、曲想の変化を感じ取って歌い方の工夫に結び付けることができる教材である。

以上の教材曲を扱い、表現活動や鑑賞を協働的に行う中で、互いの感じ方の違いや共通点に気づき、思いや意図にあった表現を共に工夫したり、曲のよさを追求したりすることの楽しさを味わい、音楽活動への主体的な関わりを深めることが期待されると考え、本題材を設定した。

2 研究との関わり

本研究の主題は「音楽的な感性を働かせ、曲のよさを語り合うことのできる児童の育成」である。児童はこれまで意欲的に音楽活動に取り組む姿が見られる一方で、聴き取ったことや感じ取ったことを基に、曲のよさを自分の言葉で表現し、仲間と共有することが十分にできていない現状がある。そこで本題材「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」では、旋律の特徴や音色等、音楽を形づくっている要素に着目し、それらの働きを曲想と結び付けて考えることで、曲のよさを見いだしたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫したりする活動を位置付ける。そのために、音楽を視覚と聴覚両方から捉えることができる「楽譜付き音源動画」を活用することで、様々な視点から音楽を形づくっている要素を知覚することのできる学習機会を確保する。また、多様な交流形態を通じた他者の考えとの比較により、自己の考えを広げ、自分の考えを再構成し、曲のよさについて考えを深めていく言語活動の充実を図る。それにより、多様な視点から音楽のよさを味わい、豊かな感性を育むことを目指す。

3 題材の目標及び児童の実態

	目標	児童の実態
知識及び技能	・曲想及びその変化と、旋律などの音楽の構造との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能や、音色や響きに気を付けて、互いの音を合わせてリコーダーを演奏する技能を身に付ける。	・表現や鑑賞の活動を通して、曲想の変化を感じ取ることができる児童は多く、感じたイメージを身体で表現することは得意である。しかし、それを生かして歌唱や器楽で表現するための技能が十分ではない児童も見られる。

思考力、判断力、表現力等	・音色、旋律、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。	・表現の活動の中で、音の上行、下行を根拠にしながら強弱の変化等、演奏方法の工夫をする児童が多く見られる。鑑賞では、聴き取ったことと感じ取ったことを結び付け、そこから曲や演奏のよさなどを見いだすことができる児童が少ない。
学びに向かう力、人間性等	・旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽にみられる旋律の特徴に親しむ。	・表現領域、鑑賞領域共に、友達と協働し、楽しく音楽活動に取り組み、進んで自分の考えを発言することのできる児童が多い。

4 評価規準

知識・技能	①曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。(歌) ②思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌) ③思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器) ④思いや意図に合った表現にするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。(器) ⑤曲想及びその変化と、旋律などの音楽の構造との関わりについて気付いている。(鑑)
思考・判断・表現	①旋律、音色、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(歌・器) ②音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。(鑑)
主体的に学習に取り組む態度	○旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(歌・器・鑑)

5 指導及び評価の計画（全9時間：本時第6時）

過程	時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法(観点)> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
つかむ	1	□「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴と曲のまとまりを感じながら、主な旋律を歌う。	①			◆曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。<演奏聴取(知①)> ◆旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。<観察・ワークシート(態)>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[題材の学習課題] 旋律の特徴を感じ取りながら演奏したり、聴いたりしよう。</p> </div>						

追求する	2	□「ゆかいに歩けば」の旋律の特徴を生かした歌い方を工夫する。	②	①	◆思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。＜演奏聴取（技②）＞ ◆旋律、音色、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。＜演奏聴取、ワークシート（思①）＞
	[本時のめあて] 旋律の特徴に合う歌い方を工夫しよう。				
	3	□「陽気な船長」の旋律の特徴や曲のまとまりを感じ取り、旋律の特徴を生かして演奏する。	③		◆思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。＜演奏聴取（技③）＞
[本時のめあて] 旋律の特徴を感じ取り、タンギングや息の使い方に気を付けて演奏しよう。					
	4	□「陽気な船長」の重なり合う響きを感じ取って二重奏をし、曲想にふさわしい演奏の仕方を工夫する。	④	①	◆思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。＜演奏聴取（技④）＞ ◆旋律、音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。＜演奏聴取、ワークシート（思①）＞
[本時のめあて] 二つの旋律を合わせて、演奏の仕方を工夫しよう。					
	5	□「白鳥」を聴き、主な旋律や音色を聴き取る。	⑤		◆曲想及びその変化と、旋律などの音楽の構造との関わり気付いている。＜発言内容、行動観察（知⑤）＞
[本時のめあて] 「白鳥」の主な旋律の特徴を聴き取ろう。					

	6 本時	□「白鳥」の主な旋律や伴奏の特徴から、白鳥の様子を感じ取り、曲や演奏のよさを味わって聴く。	②		◆音色、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。＜発言内容、ワークシート（思②）＞
<p>[本時のめあて] 白鳥の旋律の特徴をもっと見つけよう。</p>					
	7	□「白鳥」を聴いて、聴き取ったことと聞き取ったことを基に曲の紹介文を書く。	⑤		◆曲想及びその変化と、旋律などの音楽の構造との関わり気付いている。＜ワークシート、行動観察（知⑤）＞
<p>[本時のめあて] 白鳥のよさを、学校みんなに伝えよう。</p>					
ま と め る	8	□「とんび」の歌詞が表す情景を想像しながら歌い、旋律の特徴に気付く。	②		◆思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。＜演奏聴取（技②）＞
<p>[本時のめあて] 歌詞の内容やと旋律の特徴に気を付けて歌おう。</p>					
	9	□「とんび」の歌詞の内容や旋律の特徴に合う歌い方を工夫して歌う。	①	●	◆旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。＜演奏聴取、ワークシート（思①）＞ ◆旋律の特徴に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。＜観察・ワークシート（態）＞
<p>[本時のめあて] 歌詞の内容と旋律の特徴に合う歌い方を工夫しよう。</p>					

II 第6時の学習

- 1 **ねらい** 音色や旋律の音の上行、下行などに着目して聴き、意見交流する活動を通して、音色や旋律の特徴を感じ取り、曲や演奏のよさを味わって聴くことができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (導入5分) S：旋律は、音が上がっていくところと下がってくるころがあったな。 S：楽器はチェロとピアノだったな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて・課題等> 白鳥のせんりつのとくちょうをもっと見つけよう。</p> </div>	<p>○児童が本時で扱う楽曲の構造を再確認し、本時の見通しをもつことができるように、前時の身体表現の活動を導入で行う。 ○児童が、活動の中で楽器の音色を意識することができるように、白鳥で使われている楽器について問い掛ける。 ○児童が本時のめあてに自発的に迫ることができるように、音の上行、下行以外の旋律の特徴について問い掛ける。 ◎児童が、曲全体の旋律の音の上行、下行を視覚的に把握することができるように、曲全体の主旋律の音符を線で結んだ楽譜付き音源動画を提示する。</p>
<p>2 個別で曲全体の楽譜付き音源動画を視聴しながら、主旋律の音符を演奏に合うように線でつなぐ。 (展開①15分) S：旋律が上がっていくところは、白鳥が飛び立つ様子が想像できたから、勢いよく上に線を上げたよ。 S：チェロの音色が優しくてなめらかだから、直線ではなくて曲がった線のほうがいいかな。 S：音が震えている感じがしたから、ギザギザにしてみようかな。</p>	<p>○児童が演奏の音色や曲全体の雰囲気を意識して音符を線でつなぐことができるように、直線で結んだ際の音色の例などを教師の歌唱で示す。 ○児童が円滑に作業へ取り組むことができるように、線のつなぎ方の例を例示する。 ○児童が音楽を形づくっている要素の「旋律」「音色」を意識して思考できるように、児童に旋律の音の上行、下行や音色などの特徴について問い掛ける。 ○児童が自分の考えを深めることができるように、活動の途中で自由に教室内を移動し、多様な考えに触れられるよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目 音色、旋律について聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。<ワークシート(思②)></p> </div>
<p>3 児童が聴き取ったことと感じ取ったことを基にしてつないだ旋律の線を全体で共有する。また、原曲と音楽を形づくっている要素を変化させた音源を聴き比べる。 (展開②15分) S：私も○○さんと同じように線をつないだよ。 S：実際に音楽を聴いてみると、確かに○○さんの考えも納得できるな。 S：旋律の音の上がり下がりやピアノ伴奏が変わると、曲の雰囲気がとても変わるのだな。</p>	<p>○児童が「白鳥」の旋律の特徴について深く味わうことができるように、児童の考えを提示した後、グループでその考えについて思考する時間を設定する。 ○児童が発表した考えを、すぐに音楽を結び付けて実感できるように、児童の発表後に音源を全体で聴く時間を設定する。 ◎児童がピアノ伴奏も曲のよさに関係していることを実感できるように、伴奏形を変化させた音源を視聴するよう促す。</p>

4 学習のまとめをし、本時の学びを振り返る。
(終末 10分)

<まとめ>

せんりつの音の上がり下がりだけではなく、チェロやピアノの音色や様々なことが曲のよさに関係している。

- 児童が本時の学習を振り返ることができるように、白鳥の旋律の特徴はどのようになっていたかを児童全体に問い掛ける。
- 児童が曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができるように、曲全体を最後に全員で聴き、新しい気付きや曲のよさについて話し合う時間を設定する。
- 児童が組曲「動物の謝肉祭」に興味をもち、旋律の表現の幅に関心をもつことで題材のまとめにつながられるように、参考曲の「堂々たるライオンの行進」を聴き、旋律の特徴について「白鳥」と比較するよう促す。

ふりかえり：○チェロの旋律から、白鳥が羽ばたく様子や湖で泳ぐ様子が想像できた。
○ピアノ伴奏から、水の流れを想像することができた。
○白鳥以外の『動物の謝肉祭』の曲をもっとたくさん聴いてみたい。

3 板書計画

せんりつのとくちょうを感じ取ろう

① 白鳥のせんりつのとくちょうをもっと見つけよう。

☆音符を線でつなぐ。

曲がった線 ギザギザした線 直線 など
演奏を聴いて考えながら
旋律の線を作る

② せんりつの上がり下がりだけではなく、チェロやピアノの音色や様々なことが曲のよさに関係している。

電子黒板

児童の考え